

CAROWAA

CAROWAA —ちやろわ

アチョリの言語で「our village」「our home」「our land」といった意味を持つ言葉です。

JICA プロジェクトとともに自分たちの故郷がより発展する、という気持ちを込めて、グルオフィスの現地スタッフが名づけてくれました。



「アムル県総合開発計画策定支援プロジェクト」進捗状況

道路プロジェクト(パイロットプロジェクト)の進捗状況についてお知らせします。ニュースレター第 10 号でお知らせした洪水被害から 3 ヶ月が経ち、毎月のように洪水の発生はあるものの、乾期のシーズンに入って水位も比較的安定しております。現在 LOT1 では肅々と工事の完成に向けて作業が進められており、橋台 2、橋脚 2(写真手前)の下部工はほぼ終了し、橋台 1、橋脚 1(写真奥手側)は最終リフトの鉄筋組み立て及び型枠据付け作業を継続中です。同時に橋桁(プレキャスト桁)の製作も行われております。

迂回水路に設置されていた 2 本のパイプカルバート(鋼製)のうち一本が流失した件ですが、現在は元の位置に戻り 12 月初旬には埋め戻し作業を行い、再び車両通行可能な仮設橋として復旧されました。道路プロジェクトチームから聞き取りを行ったところ、鋼製パイプの重量は一本あたり約 1.6t でパイプの流出距離は約 50m(枝に引っ掛っていたためこの程度の距離で済んだが、木がなければこれ以上、流されていた可能性もある。)、パイプ自体の欠損や変形等は確認できなかったが、洪水の影響によるものと見られる水路法面の侵食が確認されています。



LOT1 橋梁工事現場の様子



洪水の影響のもと見られる水路法面の侵食状況



迂回水路の現況(洪水直後)



迂回水路の現況(現在)

LOT1 工事の行われている県道 Otwee-Anaka 線では 3 箇所排水用ボックスカルバートを建設中。道路チームの南団員を中心としたローカルエンジニアたちによる施工監理が肅々と進められています。進捗状況は、ボックスカルバート本体はほぼ終了し、上下流側のウイング部分の施工を残すのみ(図-1)。カルバート側壁部の養生中、その後、ウイング部分の施工開始(図-2)。基礎地盤面の掘削作業中です(図-3)。



進捗状況について話し合う南団員とローカルエンジニア



図-1 カルバート本体は施工終了



図-2 側壁部を養生中



図-3 基礎部分の掘削作業風景

CAROWAA

LOT2 においては洪水の対応策として設計変更をおこない、現設計より 1m 高く嵩上げし、それに伴ってすでに施工した橋脚・橋台部分の破碎作業を行っています。現在、橋台、橋脚ははつり作業や追加鉄筋の据付け作業を継続中です。また、同時に橋桁（プレキャスト桁）の製作も作業が行われております。ここでも、毎月洪水が発生し、工事の進捗を妨げている要因となっていますが、さらに施工業者の調達の遅れも工事遅延の要因となっています。設計変更に伴うはつり作業のためのハンドブレイカーとコンプレッサーを 9 月 25 日に要求しましたが、10 月 28 日ようやく 1 台が確保され、作業が開始されました。現在は 2 台を確保し作業が行われておりますが、工期遅延の原因は自然災害によるものばかりではなく、施工業者の怠慢な施工体制も要因のひとつとして考えられています。



橋台のはつりの様子(南側)



南側から見た現場状況



橋脚の追加鉄筋据付け終了



迂回水路確保のため北側の橋脚は施工中止



橋桁の製作作業風景



はつり作業のためのコンプレッサー

「アチョリ地域地方道路網開発計画プロジェクト」詳細計画策定調査 調査団訪問

「アムル県総合開発計画策定プロジェクト」の後継プロジェクトとなる「アチョリ地域地方道路網開発計画プロジェクト」の詳細計画策定調査団が 12 月 7 日に現地を訪問しました。調査団はパデール県、キトゥグム県の現地調査を行い、グル市内にて Kick-off Meeting を開催し、その後カンパラにて MOWT (建設交通省) と協議を行い S/W/M/M の署名を行う予定です。



Kick off meeting 会議の様子



コメントする参加者たち

コミュニティー開発プロジェクト Draft Final Report 発表と 国別研修帰国報告会の合同開催

12 月 9 日(木)、10 日(金)コミュニティー開発プロジェクトのドラフトファイナルレポート発表会と国別研修帰国報告会がホテルアチョリインで合同開催されました。初日はコミュニティーグループの開発プロジェクト DFR を行い、最終日は計 10 名の研修員による Action Plan のプレゼンテーション



岩本総括による DFR の主旨説明



JICA 関所長による挨拶

ンがなされ、今後の各県の開発プランについてそれぞれが懸命に発表していました。両日とも参加者は熱心に聴講し意見を述べ合い、真剣な姿が印象的でした。国別研修は今後 2 年間継続される見通しですが、今回の研修が北部地域の発展に寄与できることを期待しています。



首相府 Mr.Maxwell 氏の発表の様子



Gulu CAO ムソバ氏のアクションプラン

「アムル県国内避難民帰還促進のためのコミュニティ開発計画策定プロジェクト」 進捗状況

「緊急パイロットプロジェクト」パボサブカウンティ 公共サービスホール、スタッフハウス、水供給システム引渡し式典を開催

12月14日(火)、緊急パイロットプロジェクト アムル県パボサブカウンティの公共サービスホール、スタッフハウス、水供給システムの引渡し式典が開催されました。天候にも恵まれ無事に開催日を迎えることが出来ました。JICA からはカンパラ事務所関係者、グルフィールドオフィス平井プログラムマネージャー、コミュニティ開発チームが参加しました。首相府を始め、県からは行政長官、県駐在代表官らが参加し、総勢 300 名以上が見守る中、式典は開始されました。テープカットが終了すると参加者は一斉にサービスホール建物内へ入り、興味深く見学していました。地元ダンスチームも式典を盛り上げ、出席者からは JICA に対する賛辞の声が続々と寄せられ、盛大な盛り上がりを見せました。



公共サービスホール



テープカットの様子



式典に参加する地元住民達



セレモニーの祝福をする関係者



式典を盛り上げるダンスチーム



JICA とパボの銘板

緊急パイロット「アムル県多目的ホール」完成間近

地盤条件や降雨の影響により、工期の遅れが心配されていたアムル県多目的ホールですが、躯体工事もほぼ終了し残すは外柵と太陽光パネルの据付けのみとなりました。この施設はウガンダ北部地域最大のホールとなります。12月22日(水)に引渡し式典を予定しており、在ウガンダ日本国大使館より加藤大使も出席予定です。



アムル県多目的ホールの外観-1



アムル県多目的ホールの外観-2



ホール内部の様子-1



ホール内部の様子-2